

令和4年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要（小4 義4）

■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。（小・義務教育学校4年生については令和5年度の調査から把握することができます。）
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

■学力のレベル

	調査する レベルの 範囲	市		県	
		レベル	平均正答率 (%)	レベル	平均正答率 (%)
【令和4年度】小4国語	1～7	5-A	56.7	5-A	56.7
【令和3年度】小4国語	1～7	6-A	54.6	6-A	54.7
【令和4年度】小4算数	1～7	5-C	60.3	5-C	59.7
【令和3年度】小4算数	1～7	5-B	66.2	5-B	66.6

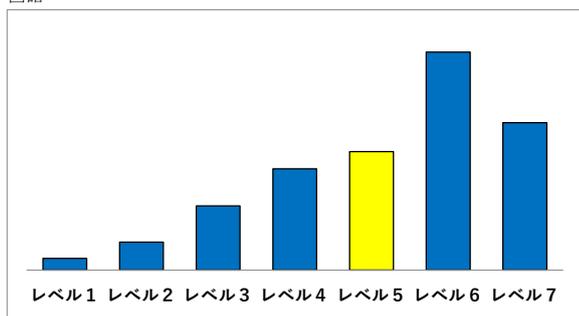
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています（1-Cから12-Aまで）。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語が5-A、算数が5-Cで、国語の方が2段階高い。

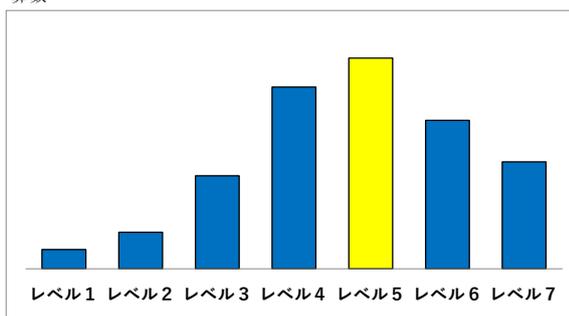
■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



算数



- 国語では、レベル6の児童の割合が最も大きい。
- 算数では、国語と比べてレベル6とレベル7の児童の割合が小さく、レベル4の児童の割合が大きい。

■カテゴリー別正答率 (%)

+ 1. 1ポイント以上

- 1. 1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小4	63.8	49.8	39.2	58.8	61.3	47.9	63.1	48.5	13.0
県 小4	63.9	51.6	38.4	58.3	61.7	47.2	63.4	47.9	12.8
県 小4との比較 (±ポイント)	-0.1	-1.8	0.8	0.5	-0.4	0.7	-0.3	0.6	0.2

- 教科の領域等の「情報の扱い方、我が国の言語文化」で1. 8ポイント、県の正答率を下回っている。
- 教科の領域等では、「話すこと・聞くこと、書くこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

算数	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	測定	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小4	60.3	49.2	61.5	71.9	62.7	44.7	58.0	64.2	38.9
県 小4	60.0	48.9	60.7	70.9	62.1	44.2	57.4	63.8	37.3
県 小4との比較 (±ポイント)	0.3	0.3	0.8	1.0	0.6	0.5	0.6	0.4	1.6

- 問題形式の「記述式」で1. 6ポイント、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「図形」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■主体的・対話的で深い学びの実施、学習方略、非認知能力

	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	やりぬく力(参考値)
【令和4年度】市 小4	3.9	3.4	3.5	3.4	3.7	3.9	3.4	3.0
【令和4年度】県 小4	3.9	3.5	3.5	3.5	3.7	3.9	3.4	3.1
【令和4年度】県 小4との比較	0.0	-0.1	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0	-0.1

- ◇ 数値は、質問紙調査において児童が5段階（1～5）で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：児童が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）
 - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
 - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
 - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
 - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
 - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
 - 自己効力感：自分への自信、自己肯定力 など
 - やりぬく力：粘り強い、根気がある など

- 「主体的・対話的で深い学びの実施」の数値は県と同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は県とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値が他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の数値は県とほぼ同じである。「やりぬく力」の数値が他の項目と比べて低い。

令和4年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要（小5 義5）

■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

■学力のレベルと伸び

	調査するレベルの範囲	市			県			
		レベル	伸び	伸びた児童の割合(%)	平均正答率(%)	レベル	伸び	平均正答率(%)
【令和4年度】小5国語	2～8	6-A	0	53.2	55.1	6-A	0	55.2
【令和3年度】小4国語	1～7	6-A			54.6	6-A		54.7
【令和4年度】小5算数	2～8	6-C	2	71.8	63.0	6-C	2	63.6
【令和3年度】小4算数	1～7	5-B			66.2	5-B		66.6

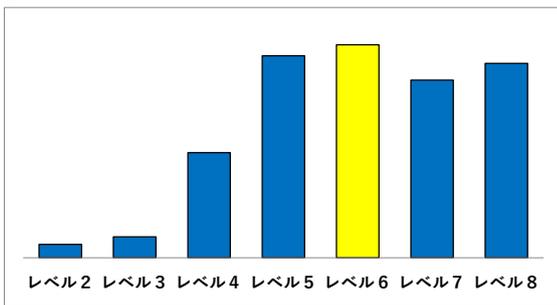
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています（1-Cから12-Aまで）。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語は6-Aで昨年度と同じであるものの、算数は5-Bから6-Cに2段階あがっている。
- 国語は53.2%、算数は71.8%の児童で学力が伸びている。

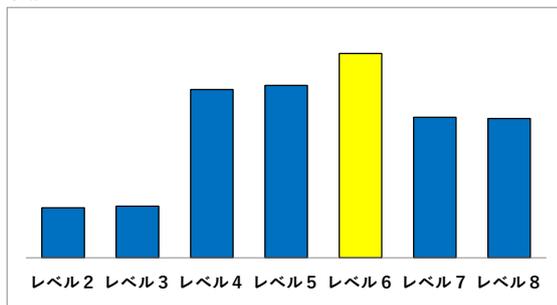
■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



算数

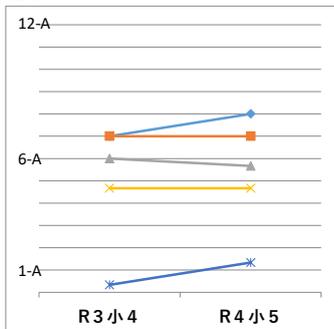


- 国語では、レベル7とレベル8の児童の割合が大きいものの、レベル5の児童の割合も大きい。
- 算数では、国語と比べてレベル7とレベル8の児童の割合が小さく、レベル4の児童の割合が大きい。

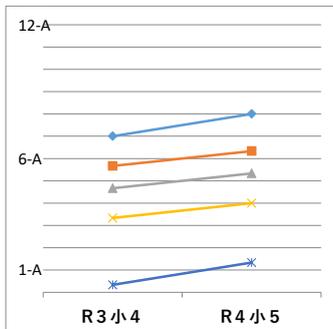
■学力の伸びの状況

- ◆ : 最大値 (最も学力が高い児童が属する学力のレベル)
- : 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童が属する学力のレベル)
- ▲ : 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童が属する学力のレベル)
- × : 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童が属する学力のレベル)
- * : 最小値 (最も学力が低い児童が属する学力のレベル)

国語



算数



- 国語では、上位層、下位層の学力が伸びているものの、中位層の学力が伸びていない。
- 算数では、上位層、中位層、下位層のいずれの層も同じ傾きで学力が伸びている。

■カテゴリー別正答率 (%)

+1.1ポイント以上

-1.1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小5	64.2	50.8	49.6	42.5	62.6	45.2	57.7	53.8	18.7
県 小5	64.6	52.1	48.9	42.2	63.2	44.8	58.2	53.0	20.2
県 小5との比較 (±ポイント)	-0.4	-1.3	0.7	0.3	-0.6	0.4	-0.5	0.8	-1.5

- 教科の領域等の「情報の扱い方、我が国の言語文化」で1.3ポイント、問題形式の「記述式」で1.5ポイント、県の正答率を下回っている。
- 教科の領域等では、「読むこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

算数	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小5	63.4	53.9	73.0	65.9	63.6	60.0	61.3	66.8	39.8
県 小5	64.3	54.7	73.6	65.9	64.2	60.3	61.8	67.7	38.6
県 小5との比較 (±ポイント)	-0.9	-0.8	-0.6	0.0	-0.6	-0.3	-0.5	-0.9	1.2

- 問題形式の「記述式」で1.2ポイント、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「図形」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■主体的・対話的で深い学びの実施、学習方略、非認知能力

	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	向社会性
【令和4年度】市 小5	3.9	3.3	3.4	3.3	3.6	3.8	3.2	3.0
【令和3年度】市 小4	3.9	3.4	3.5	3.5	3.7	3.9	3.0	
【令和3年度】市 小4との比較	0.0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1	-0.1	0.2	
【令和4年度】県 小5	4.0	3.4	3.5	3.4	3.7	3.9	3.3	3.1
【令和4年度】県 小5との比較	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1

- ◇ 数値は、質問紙調査において児童が5段階（1～5）で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：児童が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）
 - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
 - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
 - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
 - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
 - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
 - 自己効力感：自分への自信、自己肯定力 など
 - 向社会性：相手の気持ちを考える、親切にする など

- 「主体的・対話的で深い学びの実施」の数値は昨年度と同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は昨年度とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値が他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の数値は県とほぼ同じである。「向社会性」の数値が他の項目と比べて低い。

令和4年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要（小6義6）

■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

■学力のレベルと伸び

	調査するレベルの範囲	市				県		
		レベル	伸び	伸びた児童の割合(%)	平均正答率(%)	レベル	伸び	平均正答率(%)
【令和4年度】小6国語	3～9	7-B	2	76.3	62.4	7-B	2	61.0
【令和3年度】小5国語	2～8	6-A	2	67.1	57.6	6-A	2	56.1
【令和4年度】小6算数	3～9	7-C	3	74.5	60.9	6-A	2	59.7
【令和3年度】小5算数	2～8	6-C	3	81.1	59.6	6-C	3	58.9

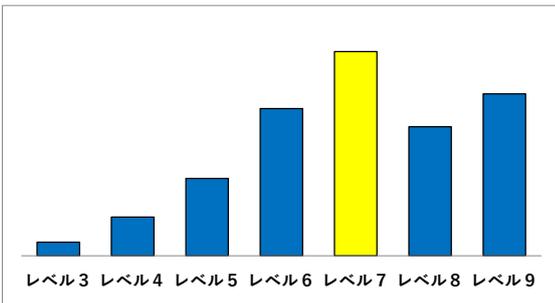
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています（1-Cから12-Aまで）。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語が6-Aから7-Bに2段階、算数が6-Cから7-Cに3段階あがっている。
- 国語は76.3%、算数は74.5%の児童で学力が伸びている。

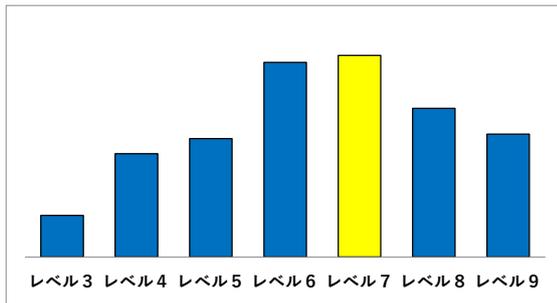
■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



算数

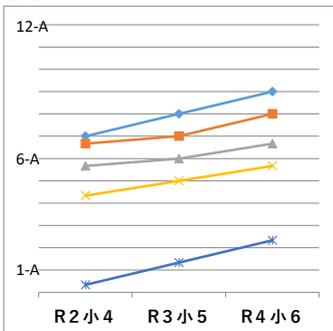


- 国語では、レベル9の児童の割合が大きい。
- 算数では、国語と比べてレベル3とレベル4の児童の割合が大きい。

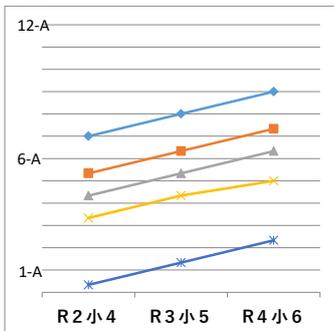
■学力の伸びの状況

- ◆ : 最大値 (最も学力が高い児童が属する学力のレベル)
- : 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童が属する学力のレベル)
- ▲ : 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童が属する学力のレベル)
- × : 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童が属する学力のレベル)
- * : 最小値 (最も学力が低い児童が属する学力のレベル)

国語



算数



- 国語では、令和3年度調査から、上位層、中位層、下位層のいずれの層も同じ傾きで学力が伸びている。
- 算数では、令和3年度調査からの中下位層（25%値）の傾きが他の層と比べて緩やかである。

■カテゴリー別正答率（％）

+1.1ポイント以上

-1.1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小6	63.8	76.9	62.4	56.0	65.4	58.5	65.1	59.4	28.3
県 小6	63.0	74.6	61.6	53.5	64.3	56.6	63.9	57.4	28.0
県 小6との比較（±ポイント）	0.8	2.3	0.8	2.5	1.1	1.9	1.2	2.0	0.3

- 教科の領域等の「読むこと」や評価の観点の「思考・判断・表現」など、6項目で1.1ポイント以上、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「読むこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

算数	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小6	65.9	57.2	65.3	51.2	61.4	55.6	60.6	62.9	34.3
県 小6	64.7	56.5	63.8	49.8	60.3	54.3	59.6	61.7	33.0
県 小6との比較（±ポイント）	1.2	0.7	1.5	1.4	1.1	1.3	1.0	1.2	1.3

- 評価の観点の「思考・判断・表現」や問題形式の「記述式」など、7項目で1.1ポイント以上、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「データの活用」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■主体的・対話的で深い学びの実施、学習方略、非認知能力

	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	勤勉性(参考値)
【令和4年度】市 小6	3.8	3.4	3.5	3.3	3.7	3.9	3.2	3.7
【令和3年度】市 小5	3.9	3.2	3.4	3.3	3.6	3.8		3.7
【令和3年度】市 小5との比較	-0.1	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1		0.0
【令和4年度】県 小6	3.9	3.4	3.5	3.3	3.7	3.9	3.2	3.7
【令和4年度】県 小6との比較	-0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- ◇ 数値は、質問紙調査において児童が5段階（1～5）で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：児童が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）
 - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
 - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
 - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
 - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
 - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
 - 自己効力感：自分への自信、自己肯定力 など
 - 勤勉性：やるべきことをきちんとやる など

- 「主体的・対話的で深い学びの実施」の数値は昨年度とほぼ同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は昨年度とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値が他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の数値は県と同じである。「勤勉性」の数値が他の項目と比べて高い。